

洞爺湖温泉小学校における「第15回 緑はどうなった？春授業」参加報告

工藤 修

2015年3月甲斐会長時代、独立行政法人寒地土木研究所と我クラブでチシマザクラ並木を地域の宝物として活用し、緑化に関わるプロジェクト推進する為千島桜基金を設立しました。この活動の一つの柱、今年度「緑はどうなった？」授業の報告です。

6月12日L岡山、L工藤2名で参加。この授業は2004年から実施。そのねらいは

- ・有珠山の2000年噴火災害と減災対応について伝えて行くとともに、噴火により森林が破壊されても、美しく多様な緑が再生していることを知る。
- ・美しく多様な森林は、色々な動植物の競争と共生によって成り立ち、生きていることを実感する。
- ・緑の再生に人として関わり、成長を見守っていく喜びを感じる。

こう書くと堅苦しい感がありますが、自らが生まれ育ったこの地で過去起こった噴火災害を知り、その時の泥流や防災構築物で消えた森を戻す活動により、故郷を緑ある心豊かで気持ち良い生活の場にしよう。加えて30～40年おきに再噴火が起こる可能性に備える授業と理解しました。

4月末千島桜の苗頒布時、募金箱に投入される浄財の一部がこのACTに使われています。



洞爺湖温泉小学校



校長室で事前打ち合わせ会議



岡村先生から苗植えの手順説明



L岡山がサポートする第5班メンバー達



学童・サポートメンバー集合写真



手前の樹木がこの間植樹し成長した樹木。奥に横切る砂防ダム堰堤を植樹で隠している



生徒代表からのお礼挨拶